

Brocade VDX2730 10GbE Connection Blade のインストールと基本的なセットアップを完了するには、このクイックスタートガイドのステップを行ってください。インストールやセットアップの詳細情報を知りたい場合は、本製品のハードウェア・リファレンス・マニュアルを参照してください。

## 1 ブレードシャーシの準備

シャーシに本製品を搭載する前に以下の事を確認してください。

- ・ブレードシャーシに電源が入っているか
- ・CB スロットに本製品の搭載が可能な状態かどうか
- ・電源供給量等の要件を満たしているかどうか

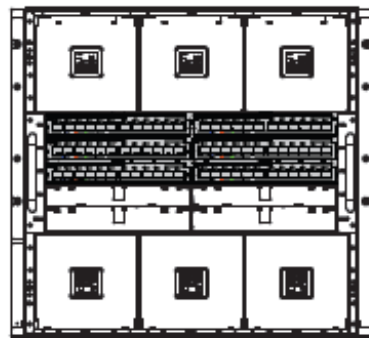
### 複数スイッチブレードの搭載

それぞれのスイッチに対して一意の IP アドレスを設定する必要があります。複数台搭載する場合は、IP アドレス設定の変更後に追加のスイッチブレードをインストールしてください。もし DHCP サーバを使用しない場合は、IP アドレスの重複が発生しないように確認しつつ、インストールや設定を行ってください。

## 2 ブレードシャーシへの搭載

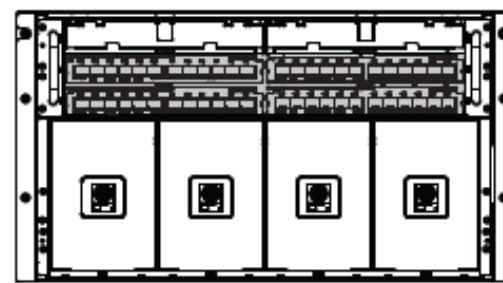
BX900 シャーシには CB スロットの CB1 から CB6 までの最大 6 枚の搭載が可能です。

(下図の影部)



BX400 シャーシには CB スロットの CB1 から CB4 までの最大 4 枚の搭載が可能です。

(下図の影部)



1. リリースラッチを押し、リリースレバーを引き出せるようにします。
2. リリースレバーを引き、リリースレバーを広げます。
3. 外部ポートがこちらを向くようにして、リリースレバーを完全に広げ、CB スロット内にスイッチブレードをスライドして搭載します。
4. リリースレバーを内部へと押し、ぴったりと収まるようにしてください。スイッチブレードが起動し、診断が実行されます。MMB を通した Ethernet 接続も確立されます。

## 3 トランシーバー(光モジュール等)とケーブルの装着

使用できる光モジュールは 21 CFR Subchapter I, and with IEC 825-2 によって定義された CFR FDA Class1 radiation performance requirements に準拠し、Brocade Communication Systems, Inc によって使用可能とされたモジュールのみです。これらの標準に準拠しない光製品は目に有害な光を放射する可能性があります。

Brocade ブランドの SFP/SFP+モジュールのみを使用するようにしてください。

1. しっかりと固定され、ラッチがカチンとなるまでモジュールを外部ポートに差し込みます。
2. ラッチ機能がカチンとなるように各モジュールに適切なケーブルを接続します。

## 4 IP アドレス設定のための、MMB CLI の使用

IP アドレスを設定するために、BX900/400 シャーシの MMB へアクセスします。

1. Telnet/ssh セッションを MMB(Management Blade)に対して確立します。MMB は管理端末からアクセスできるネットワーク上に存在している必要があります。
  - a) Telnet/ssh セッションを管理端末のターミナルソフトで実行します。(Telnet の port 番号は 3172 を指定)
  - b) MMB の username と password を入力します。(デフォルトは admin/admin です)
2. IP アドレス設定のために、以下の選択を行います。
 

BX900 の場合

  - a) メニューから“(3) Console Redirection”を選択します
  - b) メニューから“(1) Console Redirect Connection Blade”を選択します。
  - c) メニューから本製品を搭載したスロットを選択します。

以上でスイッチブレードのログインプロンプトが表示されます。

BX400 の場合

  - a) “cd consoleredirection”コマンドを実行します。
  - b) “set ConsoleredirectionTo=CB<CB slot number>”コマンドを実行します。

以上でスイッチブレードのログインプロンプトが表示されます。
3. スイッチブレードの username と password を入力します。(デフォルトは username/password が admin/password)
4. スイッチブレードの POST(Power-On Self-Test)が完了し、各種 LED で異常を示していないか確認してください。
5. IP アドレス設定のコマンドを実行します。本マニュアルの“⑥Ethernet 接続の確立”を参照してください。(詳細はハードウェア・リファレンス・マニュアルを参照してください)

## 5 MMB アクセスにシリアル接続を行う場合

MMB への IP アクセスを行わずに IP アドレスを VDX2730 に対して設定するには、以下のようにシリアル接続を行います。

1. 管理端末で実行しているシリアル接続関連のプログラムを全て停止します。
2. 管理端末と MMB をシリアルケーブルで接続します。

## 5

## MMB アクセスにシリアル接続を行う場合(続き)

- ターミナル・エミュレータ(Hyperterminal や Unix/Linux の Term 等)を管理端末で起動し、ターミナルセッションを確立します。これは MMB の IP アドレスを必要としないため、MMB の IP 設定の際に使用できる接続です。また、本接続で他の設定変更も可能です。

## Windows XP の場合の例

- “スタート”をクリックし、“すべてのプログラム” > “アクセサリ” > “通信” > “ハイパーターミナル”を選択します。
- 接続の名前(任意)を入力します。
- ハイパーターミナルのウィンドウの”接続の設定”で、“接続方法”を COM ポートにして、OK をクリックします。
- プロパティを以下のように設定し、OK をクリックします。

Bits per second	115200
Data bits	8
Parity	None
Stop bits	1
Flow control	None

- Administrative アカウントでログインします。(デフォルトは username/password が admin/admin)

## Unix/Linux の場合の例

- 以下のコマンドを入力します。

```
screen /dev/ttyS0 115200
```

- Administrative アカウントでログインします。(デフォルトは username/password が admin/admin)

- IP アドレス設定のために、以下の選択を行います。

## BX900 の場合

- メニューから“(3) Console Redirection”を選択します
- メニューから“(1) Console Redirect Connection Blade”を選択します。
- メニューから本製品を搭載したスロットを選択します。  
以上でスイッチブレードのログインプロンプトが表示されます。

## BX400 の場合

- “cd consoleredirection”コマンドを実行します。
- “set ConsoleredirectionTo=CB<CB slot number>”コマンドを実行します。  
以上でスイッチブレードのログインプロンプトが表示されます。

- スイッチブレードの username と password を入力します。(デフォルトは username/password が admin/password)
- スイッチブレードの POST(Power-On Self-Test)が完了し、各種 LED で異常を示していないか確認してください。
- IP アドレス設定のコマンドを実行します。

(詳細はハードウェア・リファレンス・マニュアルのを参照してください)

## 6

## Ethernet 接続の確立

Ethernet ネットワークを通して、Network OS CLI に直接アクセスし、管理することが可能です。そのためには、スイッチブレードに少なくとも一つの IP アドレスを CLI で設定してやる必要があります。IPv4 としては Static な IPv4 フォーマットや IPv4 を自動取得する DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)クライアントを使用出来ます。IPv6 としては、Static IPv6 とステートレス IPv6 設定がサポートされています。

## Static IPv4 アドレスの設定

- 管理端末上のターミナル・エミュレータから MMB 経由でスイッチブレードの CLI へアクセスします。
- スイッチブレードにログインします。(デフォルトの username/password は admin/password)
- “configure terminal”コマンドを実行し、Global Configuration モードにします。
- “interface management <rbridge-id>/0”コマンドを実行し、management ポート設定モードにします。
- “no ip address dhcp”コマンドを実行し、DHCP を disabled にします。
- “ip address <ipv4 address>/<prefix>”コマンドを実行します。  
subnet mask を指定する IPv4 アドレス設定はサポートされていません。Prefix を指定するようにしてください。(例. 209.157.22.99 255.255.255.0 ではなく、209.157.22.99/24 のように指定します)
- デフォルトゲートウェイ IP アドレスを指定します。  
[ファームウェアが 2.1.1\_fuj の場合]  
“ip gateway-address <ipv4 gateway address>”コマンドを実行し、デフォルトゲートウェイ IP アドレスを指定します。  
[ファームウェアが 3.0.0\_dcb1 以降の場合]  
“exit”コマンドを実行し Global Configuration モードに戻ります。  
”rbridge-id <rbridge-id>”を実行し、rbridge-id 設定モードにします。  
“ip route 0.0.0.0/0 <ipv4 gateway address>”コマンドを実行し、デフォルトゲートウェイ IP アドレスを指定します。  
以上で Static IPv4 アドレスの設定は終了です。

## DHCP( IPv4)の設定

デフォルトで DHCP は有効です。Network OS の DHCP クライアントは以下のパラメータをサポートします。

- IP アドレスと prefix 長
- デフォルトゲートウェイ IP アドレス

DHCP 有効のスイッチブレードをネットワークに接続し、電源 On された際に、スイッチブレードは自動的に IP アドレスと prefix 長、そしてデフォルトゲートウェイアドレスを DHCP サーバから取得します。DHCP クライアントは同じサブネット上で一つの DHCP サーバとしか接続できません。もし DHCP サーバがネットワーク上にない場合は、Static IPv4 を使用してください。

Copyright Fujitsu Limited 2014

Brocade, Brocade Assurance, the B-wing symbol, BigIron, DCX, Fabric OS, FastIron, MLX, NetIron, SAN Health, ServerIron, Turbolron, VCS, and VDX are registered trademarks, and AnyIO, Brocade One, CloudPlex, Effortless Networking, ICX, NET Health, OpenScript, and The Effortless Network are trademarks of Brocade Communications Systems, Inc., in the United States and/or in other countries. Other brands, products, or service names mentioned may be trademarks of their respective owners.